

[報告]

# 都内水域におけるヤマトシジミ、ホンビノスガイの分布

## －多摩川・荒川・京浜運河等の調査から－

和波 一夫 石井 裕一 安藤 晴夫 木瀬 晴美\*

(\*非常勤研究員)

### 1 はじめに

2010年度の都内運河部の生物生息環境調査（以下、生物生息環境調査を生息調査と表記する。）において、ヤマトシジミ、ホンビノスガイ等の貝類の生息が京浜運河周辺の干潟・浅場に確認された。しかしながら、これらの貝類の分布状況については、調査地点に限りがあり十分には把握できなかった。そこで、2011年度にヤマトシジミとホンビノスガイの2種を対象にして分布状況を把握することとした。ここでは、生息調査の結果の一部も含めて報告する。

### 2 調査地と方法

漁業者がヤマトシジミを採取している多摩川と荒川、都民がホンビノスガイを採取している大井ふ頭中央海浜公園付近の京浜運河を調査対象地域として2011年9月に調査を行った。多摩川については、大師橋付近はヤマトシジミが分布していることが予備調査から明らかであったので、大師橋から上流を調査地とした。荒川については、葛西橋から上流方向へ橋を目印に橋付近の浅場を調査地とした。大井ふ頭中央海浜公園付近と森ヶ崎の鼻の干潟・浅場の調査地については、2010年度の生息調査結果を参考にして13地点を設定した。採集用具は、鋤簾じょれん（幅30cm、高さ18cm、奥行き25cm、メッシュ間隔1cm）を用いた。多摩川、京浜運河については調査員3人が船から干潟・浅場に降りて1地点あたり10分程度の採集を行った。荒川については船上から鋤簾を着底させ、底泥が鋤簾に満ちるまで船を微速度移動して採集作業を行った。上記の採集作業後、ふるいの中で夾雑物を取り除いた後、ヤマトシジミ、ホンビノスガイ等の個体数を計数した。また、各地点最大100個体について貝類の殻長を計測した。

### 3 結果

採集調査結果を表1に示す。各調査地点のヤマトシジミ、ホンビノスガイの分布状況は次のとおりである。

#### (1) 多摩川

本調査でヤマトシジミが採集された地点は六郷橋であり、六郷橋より上流の多摩大橋、ガス橋では採集されなかった。2011年度が多摩川河口域の生息調査では、東京国際空港国際線旅客ターミナル前の浅場から大師橋周辺にヤマトシジミが採集された。これらのことから多摩川のヤマトシジミの主な分布は、同旅客ターミナル前から六郷橋の直線で約7kmの範囲に分布しているものと推測された。なお、生息調査や毎月行った水質調査での目視観察からは、多摩川のヤマトシジミの主な漁業対象域は川崎市中瀬1地先と殿町3地先の干潟・浅場であった。本調査ではホンビノスガイは採集されなかったが、生息調査で海老取川と多摩川が合流する付近の干潟で採集された。

表1 ヤマトシジミ、ホンビノスガイの採集結果

	調査地点	ヤマトシジミ		ホンビノスガイ	
		個体数	平均殻長(mm)	個体数	平均殻長(mm)
多摩川	六郷橋	31	19.7	0	
	多摩大橋	0		0	
	ガス橋	0		0	
荒川	葛西橋左岸	112	18.7	0	
	葛西橋右岸	110	17.9	0	
	船堀橋	134	15.9	0	
	小松川橋	150	15.9	0	
	平井大橋	12	12.8	0	
	四ツ木橋	3	9.3	0	
京浜運河	京-1	0		43	26.1
	京-2	0		8	30.1
	京-3	0		26	40.3
	京-4	0		24	42.6
	京-5	0		30	49.1
	京-6	0		43	69.4
	京-7	0		19	92.4
	京-8	0		0	
	京-9	0		0	
	京-10	0		0	
	京-11	0		0	
	京-12	1	23.0	78	66.8
	京-13	1	21.0	10	72.8

(2) 荒川

本調査でヤマトシジミが採集された地点は葛西橋から四ツ木橋までの区間であった。葛西橋から小松川橋の区間の採集数は100個体以上で同程度であったが、小松川橋から上流の平井大橋 12 個体、四ツ木橋は 3 個体とわずかな採集数であった。荒川河口域の生息調査では、荒川にかかる京葉線下の河口付近においてヤマトシジミがわずかに採集され、荒川に並行して流れる中川の清砂橋下では、多く採集された。これらのことから荒川のヤマトシジミの主な分布域は、京葉線下から四ツ木橋の直線で約 12km の範囲であり、ヤマトシジミが多く生息する範囲は清砂橋から小松川橋の間と推測された。ホンビノスガイは、本調査では採集されなかったが、生息調査では、京葉線下と清砂橋で採集された。

(3) 京浜運河

調査地点を図 1 に示す。ホンビノスガイは 13 地点のうち白色丸の 9 地点で採集され、中抜き丸で示す京-8 から京-11 までの 4 地点は採集されなかった。殻長 50 mm 以上の比較的大型のホンビノスガイが採集されたのは京-6、7、12、13 の地点で、森ヶ崎の鼻干潟周辺に分布していた。ヤマトシジミは、京-12、13 で採集された (表 1)。その他、採集された貝類はアカニシとサルボウガイであった (表 2)。

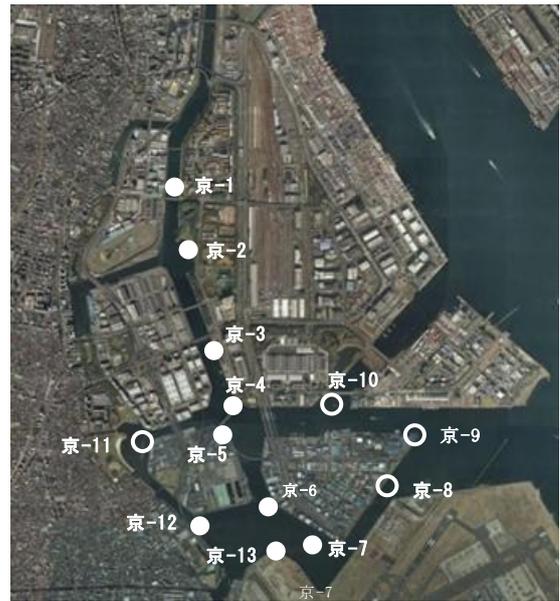


図 1 ホンビノスガイの調査地点

北米原産の外来種の貝類であり、東京湾奥部の地域での生息が報告されている<sup>3,4)</sup>。今回の多摩川、荒川、京浜運河の調査で、ヤマトシジミは多摩川の比較的狭い範囲に分布し、ホンビノスガイは京浜運河に定着していることが明らかになった。これらの貝類の分布や現存量の推移については長期的なモニタリングが必要である。

表 2 アカニシ、サルボウガイの採集結果

調査地点	アカニシ		サルボウガイ	
	個体数	平均殻長(mm)	個体数	平均殻長(mm)
京-1	0		6	25.5
京-2	0		8	29.1
京-3	0		2	30.0
京-4	0		1	44.0
京-5	0		21	26.9
京-6	0		0	
京-7	0		1	25.0
京-8	0		0	
京-9	0		0	
京-10	1	72.0	8	26.0
京-11	0		0	
京-12	0		0	
京-13	0		1	24.0

4 まとめ

ヤマトシジミは、汽水域に生息する二枚貝で、水産上の重要な貝類であるが、近年全国的に漁獲高の減少が懸念されている<sup>1,2)</sup>。環境省版レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されている。一方、ホンビノスガイは、1990 年代に東京湾奥で初めて発見された

参考文献

- 1) 山崎幸夫, 須能紀之, 根本隆夫: 涸沼におけるヤマトシジミ稚貝の分布と底質環境, 茨城内水試研報 41, pp. 25-31, (2008)
- 2) 森脇晋平, 若林英人, 三浦常廣, 山根恭道: 宍道湖におけるヤマトシジミの資源生物学的特性, 島根県水技セ研報 2, pp.21-38, (2009)
- 3) 樋渡武彦, 木幡邦男: 東京湾に移入した外来大型二枚貝ホンビノスガイについて, 水環境学会誌, Vol. 25, No. 10, pp.18-21, (2005)
- 4) 西榮二郎, 坂本昭夫, 水尾寛巳, 小市佳延, 下村光一郎: 横浜港内で採集された外来大型二枚貝ホンビノスガイについて, 神奈川県自然誌資料 29, pp.181-183, (2008)